

認知症透析患者の社会的支援と課題について

長崎腎病院

○藤原久子 林田めぐみ 澤瀬健次 佐々木修 一ノ瀬浩 橋口純一郎
原田孝司 船越哲

【はじめに】

認知症透析患者の支援については『ハイレベルな支援』が必要となる。今回は困難症例を報告し考察・課題提示する。ハイレベルの意味するものは、一般的認知症ケアに加え

- ①定期的通院が不可欠
- ②食事・水分管理が必須
- ③透析時間に耐える事と難関度は極めて高い。当院の4症例を提示する。

【症例】

- (1) 82歳男性、透析日を忘れ自由奔放に外出する独居認知症透析患者に対し地域で連携支援し看取った
- (2) 76歳女性、介護者が高齢及び障害者でありサービス利用で在宅看取
- (3) 84歳男性認々介護の為に透析拒否傾向となり施設入居で対応
- (4) 82歳女性、キーパーソンが患者を虐待した為行政に訴え虐待制度を活用し特養に保護入所に対応した。

【考察】

4症例に共通する事は、重症の認知症があっても人権を守られ敬意を持たれ、人格を尊ばれた事である。結果は(1)その人らしい社会的支援体制(2)困難症例が由により連携強化(3)精神科医の介入(4)潤滑油としてMSWとケアマネが機能。

【今後の課題】

認知症透析患者の社会支援は日々整備されつつあり、これらを有効活用する事で何とか対応可能である事が理解できよう。しかしキーパーソンが不在というケースは真の困難症例である。それに対し成年後見人制度等があるが素早く機能されていない場面が多く今後の課題といえる。